

第1回検討会議の主な意見

(1) 議題1についての意見

○有料化に当たっては、リバウンドが起きないような価格設定が必要である。また、乳児や高齢者などの方がいる世帯について配慮する施策についての考えはどうか。

…料金体系、免除対象など、他自治体の例、他課との連携などを十分に考慮した上で進めていく。

○有料化の目的として、市民にメリットがあることをPRすることが大事である。例えば、有料化を導入した場合のごみの減量による二酸化炭素削減量など。

…市民の方にメリットがあることを、分かりやすいデータを示すことで理解を求めていく。

○ごみと資源の排出に関するルールの周知が行われると、もっとごみを減らすことができると思う。ルールを知らないため、ごみとして排出してしまうこともある。

…ごみと資源の出し方について、積極的な周知方法を考えていく。

(視覚的に分かりやすいパンフレットなどを作成し、配布場所についても工夫する など)

○ごみの減量は、継続してやらなければならない問題である。子どもの頃からのごみに対する意識が重要だと思う。施設見学の対応だけでなく、幅広い環境教育をしたらどうか。

…子どもたちに対する継続的な環境教育の方法について考えていく。

(2) 議題2についての意見

○ごみ処理施設の建設を東海市と共同で進める中で、両市でごみ袋の料金が異なる場合には、疑問が残る。

○一定量無料型方式は、コストがかかる。知多市の財政面から考えると難しい。自治体の実情に合わせて進めていけばよいと思う。

…一定量無料型の料金体系は、無料範囲内でのごみの減量効果がそれほど期待できない。
全国的にみても、排出量単純比例型を採用している自治体が多く、市民にとって分りやすい。

※参考データ

有料化実施市数 450市(単純従量制(排出量単純比例型)422市、超過従量制(一定量無料型 など)28市)

○有料化については、資源回収方法の見直しと合わせて実施するとよい。

○有料化を進めていくためには、資源回収に力を入れていく必要がある。資源の出し方についての周知を再度しっかり行ったらどうか。各地区の協力も得られると思う。

○ごみを減らしていくには、資源になるごみを減らすことが必要で、きちんと分別していけば、ごみは必ず一定量減っていくと思う。そのためには、資源回収について力を入れていく必要がある。

○資源の地域回収量が減った原因として、資源売却代以外の奨励金がなくなったことも一因と考えられる。

○単身世帯も増加するなかで、月1回の資源回収では、十分な対応ができないのではないかと。また、地区によっては地域回収に係る地区などの負担が大きくなっているところがある。

…資源回収の方法を再考する必要があるが、知多市方式については、市民と行政の協働事業のひとつであるため、方式を残しつつ、資源拡大施策を考えていきたい。

地域回収の負担が大きい地区についての対応の検討 など